



村田恭雄 著

『日本の差別・世界の差別』

(明石書店)

冷戦構造が崩壊すると、世界の各地では新たに民族、宗教、貧困問題を原因とした対立、抗争が拡大してきています。

本書では日本の部落問題、インドのカースト制と不可触民、ユダヤ人問題、アメリカの黒人差別、南アフリカのアパルトヘイトなどに関わる差別問題を取り上げ、人間の心底に潜む差別意識の分析と共に、文化人類学、民俗学、宗教学、社会心理学などの諸学問分野から総合的にアプローチすべき切実な現実課題であるということを訴えています。

361.4-Mur (T.K.)



飯田深雪 著

『エチケット、マナーの覚え書』

(グラフ社)

皆さん、自分のマナーについての知識に自信はありますか？分からないけど、恥ずかしくて誰にも聞けないことなどありませんか？

本書は97歳になられた著者が、若い頃からの多数の海外経験を基に書かれたマナーについての入門書です。レストランでのスープの飲み方から自宅でパーティーを開くに至るまで、細かい指導がなされています。

皆さんも本書で、少しエレガントな大人の振るまいを身につけてみませんか？

596.8-Ida (I.N.)

増田弘, 土山實男 編

『日米関係キーワード』

(有斐閣)

日本にとってアメリカとの関係は政治外交、社会、文化などあらゆる面において非常に重要なものです。日米関係について正しい知識を身につけることが日本の政治や外交を学ぶ時に不可欠なことといえます。

本書は黒船の来航から日本の国際貢献まで100のキーワードで細かく紹介しています。日米関係を学びたい方にとってはまさに最適な一冊であり、国際人を目指す方にもぜひ一読してほしいと思います。

319.1053-Nich (H.M.)



宮崎里司 著

『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか』

(日本語学研究所)

「外国人力士はなぜ日本語がうまいのか。」大相撲の外国人力士のインタビューなどを聞いたことがある人は誰もが一度は思ったことがあるはずです。

モンゴルやアルゼンチン、ブラジル出身力士の日本語習得にはどんな秘密があるのか。最新の語学学習理論と一致する彼らの日本語学習法には外国語を学ぶ日本人にとっても効果的にことばを習得する上で多くのヒントがつまっています。

810.7-Miy (S.N.)